

B—1 鹿児島県某大学女子学生の体型について

鹿児島県立短大 茅野 艶子

1. 前回において、衣服寸法研究グループによる調査研究の一環として、昭和36年度に実施した鹿児島県立短期大学女子学生の身体計測結果について報告したが、今回は昭和38年5月～6月に同様な計測を行なったので、両年次間の比較を行ない、被服構成指導の実際について二、三の考察を試みた。

2. 被検者は前回は19歳～20歳162名、今回は18歳～21歳151名で、計測項目は、衣服寸法に關係の深い身長、総丈、背丈、前胴丈、背肩幅、肘丈、袖丈、胸囲、胴囲、腰囲、頸付根囲、腕付根囲、手首囲、頭囲、乳頭間隔、全頭高、足長、胴高の18項目、並びに体重計19項目である。

3. 両年次間の比較では、身長、総丈、前胴丈、背肩幅、胸囲、胴囲、腰囲、腕付根囲、手首囲、頭囲、乳頭間隔、胴高、並びに体重の13項目において年次による漸増の傾向を示し、前胴丈、背肩幅、腰囲、腰付根囲、頭囲の5項目は危険率 $\alpha = 1\%$ で有意差が認められる。前回の計測結果では、本学女子学生の体位は衣服寸法研究グループの総平均と比較して総体的にやや劣っていることが認められるが、今回の計測結果によれば、身長、胸囲とも総平均に近接した数値を示しており、また胴囲、腰囲はむしろ、やや上回っていることが認められる。比胴高、頭身示数についても年次による増加が認められるので、体型の釣合がよくなりつつあることがうなずかれる。